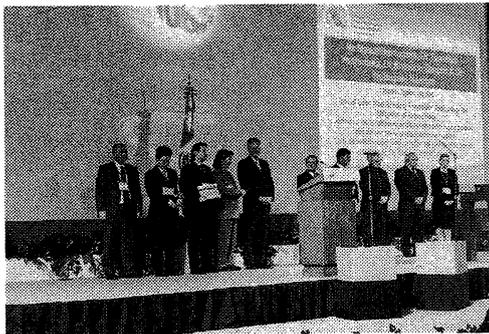


# 世界道路会議コンペでベストイノベーション賞に

メキシコで行われている第24回世界道路会議(26~30日)で、NIPPOの遮熱性舗装の論文が世界道路協会主催の論文コンペティション(PIARC賞)の「ベストイノベーション賞」に選ばれた。応募されたすべての論文の中から最も革新的で質の高いものに贈られる賞で、日本企業の受賞は初めて。地球温暖化対策やヒートアイランドの抑制は世界共通の課題となっており、NIPPOは「世界の目にとまる日本の技術は多く、欧米の評価も高い」(岩間将彦研究開発本部技術研究所副主任研究員)として、海外にも遮熱舗装性

## NIPPOの遮熱性舗装論文



の効果を積極的にPRしていく方針だ。

PIARC賞は、安全や設計・

施工といった部門ごとに応募された論文を国際審査委員が審査し、特に優れた論文を表彰するもの。ベストイノベーション賞は、全論文から選出されるもので、NIPPOは26日に各部門の受賞者とともに表彰された。写真。遮熱性舗装は、太陽の赤外線を反射する特殊なコート材によって、路面の熱吸収を防ぎ、アスファルトの路面温度の上昇を抑制する。NIPPOは、世界に先駆けて02年に商品化し、10年度までに25万平方メートルを施工している。論文には、遮熱舗装のメカニズム、路面温度の低減効果、耐久性などを記述した。

NIPPOによると、太陽光を反射し、路面温度の上昇を防止する舗装の研究事例は海外にもある。ただ、ドライバーからの視認性が劣る白色系がほとんどで、日本のような濃色に仕上げる技術は見当たらず、論文審査では「革新的技術として評価された」(岩間副主任研究員)という。

世界道路協会は、道路技術や交通政策の向上を目的に1909年に設立された。各国の道路行政関係者で構成し、現在118カ国の道路行政当局などが参加している。世界道路会議は4年に1度、同協会の主催で行われる。

# 遮熱性舗装 NIPPO が開発 国際承認

NIPPOが開発した遮熱性舗装が、世界道路協会が主催する論文コンペティション（通称PIARC賞）で最優秀賞に当たるベストイノベーション賞を受賞した。26日にメキシコシティで開会した第24回道路会議で授賞式が開かれ、写真、NIPPO研究開発本部技術研究所研究第1グループの岩間将彦副主任研究員らが参加した。世界的な課題である地球温暖化の対策技術として、日本発の舗装技術が世界の舞台で認められた。

## 世界道路協会の論文 コンペで最優秀賞に

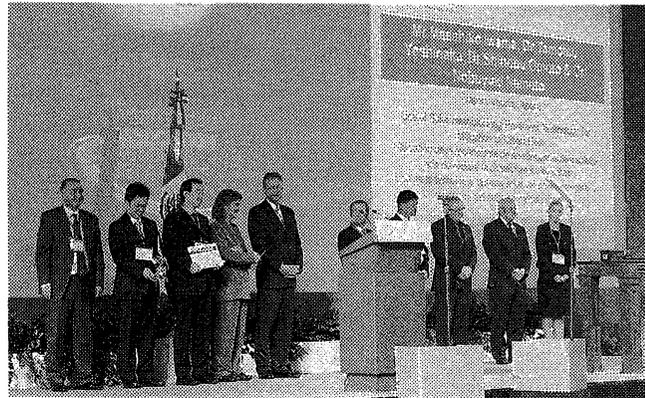
論文コンペティションでは、道路の安全や設計施工など8分野ごとに賞を贈るほか、分野を越えて1点にベストイノベーション賞を選ぶ。世界道路協会の機関誌に遮熱性舗装の論文を載

今回の受賞を驚く。太陽光を反射して路面温度の上昇を防ぐ舗装の研究例は海外にもあるが、濃色に仕上げられる実用的な技術はないことなどが高い評価につながったとみている。

## NIPPOが開発

せたところ反響が大きかったことから、論文コンペティションに応募することになった。岩間副主任研究員は「受賞はまったく考えずに論文を提出した」と

遮熱性舗装は2001年に研究を始め、02年に商品化した。NIPPOで10年度までに25万平方メートル以上を施工したほか、遮熱性舗装技術研究会（現路面温度上昇抑制舗装研究会）の参加各社の累計は100万平方メートルを超えている。当初はヒートアイランド対策として開発したが、高温で流動しやすいアスファルトのわだち掘れ対策などにも活用の幅が広がってきている。



10年に開かれたISAAP 2010名古屋会議などの国際会議でも、遮熱性舗装に対する海外からの関心は高い。「欧州や米国などを主体に問い合わせが来ている（岩間副主任研究員）。東南アジアでも実際に適用事例が出ている。NIPPOは海外事業に進出するための強みの一つとして、展開していきたい考えだ。

# 遮熱性舗装を最高位評価

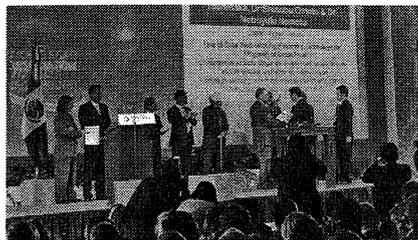
## NIPPPOの環境技術

### ベストイノベーション賞に

世界道路会議

メキシコで開催された第24回世界道路会議で、世界道路協会(PIARC)

主催の論文コンペティション(通称・PIARC賞、全8部門)の各賞が決まり、NIPPPOが世



界に先駆けて開発した遮熱性舗装に関する論文が最も革新的で質の高い論文に贈られる「ベストイノベーション賞」に選ばれた。

各部門の枠を超えた最高位の賞で、日本の舗装会社からは初の受賞。同社の環境技術開発への取り組みが世界の舞台で認められた。

PIARC賞は、会議に応募された論文の中から特に優れた論文を表彰するプログラムで、応募論文を世界から選ばれた国際審査委員が審査し

た。26日(現地時間)、メキシコシティで開催された第24回世界道路会議の開会式で授賞式(写真)が執り行われた。

地球温暖化と気候変動に伴う都市のヒートアイランド対策は、世界共通の課題となっている。太陽光を反射して路面温度の上昇を防止する舗装の研究例は海外にもあるが、遮熱性舗装のように濃色に仕上げる実用的技術は見当たらない。そのため日本発の舗装技術が世界で高く評価されたものと見られる。

遮熱性舗装は、特殊なコーティングを路面に塗布する舗装で、太陽光の熱吸収を防いで路面温度の上昇を防止する。同社は01年に開発を開始し、02年に商品化。都市部のヒートアイランド対策や歩行者の熱対策、高温で流動しやすいアスファルトの

わだち掘れ対策などに使われている。都市内で展開されている低騒音舗装の機能と両立でき、散水など路面温度の上昇抑制機能を発揮するためのメンテナンスが不要といった特徴がある。

これまでに一般の道路や皇居外苑などの歩道、空港の誘導路などに採用され、同社の施工実績は10年度までに25万平方メートルを超えた。また、遮熱性舗装技術研究会(現・路面温度上昇抑制舗装研究会)参加各社の累計施工実績は10年度までに100万平方メートルを超えている。

PIARCは、道路の建設、改良、維持、利用の促進や世界全体の道路技術・道路交通政策の向上を目指して1909年に設立された、世界各国の道路行政関係者からなる国際会議。118か国の政府道路行政当局をはじめ142か国の機関がメンバーとして参加。世界道路会議は、PIARC主催の国際会議として4年に1度開催されている。